

ふるさと
よもぎま
「加茂の百年企業」
その7



1917年（大正7年）初代船久保喜平が市内五番町（現住所）で雨具を扱う『船久保雨具』として開業しました。

当時は七谷特産の和紙を加工し、桐油で防水した桐油合羽を主要での販売。昭和十年代に入るとゴム製品が入り、ゴム合羽にとって替わるようになります。

昭和二十年には初代の名字と名前を略し、当時、社会的に認知されてきた「テント」と合わせ、現在の「船喜テント」の会社名に変更しました。

昭和三十年代に入り、ビニール、帆布が入るようになると店頭においては和傘から洋傘販売へ、製作では店先での日除けテント、自動車、トラッ

(株)船喜テント
代表取締役 船久保 隆夫

クの幌加工品に移っていきます。

トラック幌に関しては当時加茂に本社があった(株)中越運送と取り引きがあり、昭和39年に(株)中越運送が新潟市に移転後も取り引きが続き、流通業界の発展と供に商いを大きくしていきま



昭和30年の店舗



昭和32年の店舗

昭和42年には法人化し、仕事内容もカーテン、カーペットを中心とした室内装飾業を営むようになりまし

平成には工場でシートを利用した間仕切り工事が増加。地元の(株)東芝ホームテクノ、(株)日立ニコトランスミッション(旧新潟コンバーター)を中心に、工場内での防塵、防寒、防温の為にシートの加工・施工する簡易な建設工事が増える。

以上、船喜テントは時代に対応し、お客様の様々な要望に添えることで変わっていく会社であります。

現在の店舗



(株)船喜テント / 加茂市五番町6-4 Tel: 0256(52)0746



市内事業所の個性豊かな社長さんや店長さんなどの意外な交友関係をご紹介します。いつかあなたにも繋がるかも？

いいともバトン：No.38 登場の佐藤美穂子さん ➡ 中林園子さん



左/中林園子さん 中/中林功一さん 右/中林邦子さん

いいとも No.39

加茂山公園 池の端にある「椿の家」店主 中林園子さんの「とものわ」は「(株)山忠」(下条) 会長の中林功一さん・邦子さん夫妻です。2年ほど前、近くのお不動様を掃除しようと共通の知人を介して集まったのがお付き合いの始まりでした。功一さんは初対面で『この人と家内は気が合う！』とピンときたそうで、すぐに意気投合。その後、ご夫妻の家で食事をしたり、悩み事を相談することもあるとか。(同じ姓だから) ご親戚？と思うほど仲の良い3人の会話は、聞いている方も明るく楽しい気分になってきます。

「椿の家」では、新潟経営大学の販売実習で毎年、学生がアルバイトに来ていて、これまで100人近くが、この店から巣立っていったそうです。時には学生と本気でぶつかることもありましたが、面倒見の良い園子さんを加茂の母と慕う学生も多く、卒業後は結婚や子供が生まれた報告に店を訪れるそうです。園子さんいわく『加茂で一番ステキなご夫婦』というお二人と園子さん。あたたかな笑顔が素敵な『3人の中林さん』でした。